

平成23年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名		ライフサイエンス研究の総合的推進		担当部局庁	研究振興局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度		昭和49年度～平成22年度		担当課室	ライフサイエンス課		ライフサイエンス課長 石井康彦	
会計区分		一般会計		施策名	X-1 ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進			
根拠法令 (具体的な条項も記載)		-		関係する計画、通知等	第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)		革新的な創薬等の実現に向け、国際競争の激しいライフサイエンス分野において、効率的・効果的に研究開発を推進するため国内外の研究の状況や社会ニーズ等を把握するための実態調査を行うとともに、ライフサイエンス分野の中でも特に重要な先端医学研究、研究基盤整備の推進方策について検討を行う。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)		ライフサイエンス研究を総合的に推進するため、ライフサイエンス研究に関する実態調査、および先端医学研究の推進や研究基盤整備の推進に関する方策の検討を行う。						
実施方法		<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)				20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求
		予算の状況	当初予算	15.2	13.3	13.1	-	-
			補正予算	▲0.2	▲0.2	-	-	-
			繰越し等	-	-	-	-	-
			計	15.0	13.1	13.1	-	-
		執行額		14.1	7.4	4.8	-	-
		執行率(%)		94.0%	56.5%	36.6%	-	-
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
		本事業は革新的な創薬等の実現に向け、効率的・効果的に研究開発を推進するため国内外の研究の状況や社会ニーズ等を把握するための実態調査や先端医学研究、研究基盤整備の推進方策について検討を目的としており、その成果について定量的な指標を用いて示すことができない。		成果実績				
				達成度	%			
活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
		本事業は革新的な創薬等の実現に向け、効率的・効果的に研究開発を推進するため国内外の研究の状況や社会ニーズ等を把握するための実態調査や先端医学研究、研究基盤整備の推進方策について検討を目的としており、その活動について定量的な指標を用いて示すことができない。		活動実績 (当初見込み)				() ()
				算出根拠				
単位当たりコスト		(円/)		本事業は革新的な創薬等の実現に向け、効率的・効果的に研究開発を推進するため国内外の研究の状況や社会ニーズ等を把握するための実態調査や先端医学研究、研究基盤整備の推進方策について検討を目的としており、1単位当たりのコストを記載することはなじまない。				
平成23・24年度予算内訳	費目		23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	計		-	-				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>○本事業にかかる経費は、文部科学省において直接執行しており、会計規則に基づき適切な処理に努めた。</p> <p>○平成22年度の予算監視・効率化チームの所見を踏まえ、平成23年度より事業を廃止し、他事業と整理統合を行った。</p> <p>○不用率が大きかったことについては、事業を実施するため業務支援員を採用する予定であったものの、適当な人員の採用ができなかったことが理由であり、統合後の事業においては企業等からの採用を引き続き検討することが求められる。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
<p>平成21年度レビューの指摘を踏まえ、平成22年度をもって廃止の上、他事業と整理統合している。</p>			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

文部科学省
4. 8百万円

非常勤職員手当 3. 9百万円
諸謝金 0. 7百万円
委員等旅費 0. 1百万円 } を含む

革新的な創薬等の実現に向け、国際競争の激しいライフサイエンス分野において、効率的・効果的に研究開発を推進するため国内外の研究の状況や社会のニーズ等を把握するの実態調査を行うとともに、ライフサイエンス分野の中でも特に重要な先端医学研究、研究基盤整備の推進方策について検討を行う。

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

A.文部科学省			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
非常勤職員 手当	実態調査、推進方策検討等に係る 人件費	3.9			
諸謝金	会議(ライフサイエンス委員会等) 出席謝金	0.7			
旅費	委員等(ライフサイエンス委員会 等)旅費	0.1			
計		4.7	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロッ
 クごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)